

## 交通安全②

### よりよい自転車の乗り方について考える事例

高等学校 第1学年（総合的な探究の時間）

#### 単元（題材）について

##### 1 題材名

これまでの自転車の乗り方を振り返り、よりよい乗り方について考える

##### 2 「必ず指導する基本的事項」との関連

区分	Ⅱ－4 交通事故の防止と安全な生活
目標	地域の交通安全に関する諸機関や団体が行っている対策や活動を理解し、安全な交通社会を築くために、積極的に参加できるようにする。
内容	自分たちにできる交通安全活動を考え実行すること。

##### 3 教材化の視点（身に付けさせたい資質・能力）

自転車の交通事故は、毎日の登下校や移動時に起こりうるため、生徒にとって身近な問題である。そのため、自転車の安全な利用に関する知識を習得し、適切な判断や行動ができるように指導していくことが求められる。

そこで、交通ルールを再確認する活動や、交通ルールを守るために大切なことを、一人1台所有しているタブレット端末を用いた学習活動を通じて、一人一人の交通安全への意識を高めていきたい。

#### 指導計画（3時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1	○自転車シミュレータを通じて、自転車の乗り方や交通ルールについて学ぶ。	◎通学に自転車を使用しない生徒も、自転車に関する交通ルールや、被害者にならないための視点を身に付けるように指導する。
2	○自己の体験などを生かして、危機意識を共有し、交通安全について深く考え、自分たちなりのメッセージを発信できるようにする。	◎普段の行動を想起させた上で、安全な行動ができるために、どのようなことが自分たちにできるか、考えさせ、その考えを共有する。
3	○交通安全宣言を作る。	◎グループで作成した交通安全宣言について、講評を聞くことで、交通安全への意識を高める。

#### 指導の工夫

交通安全宣言を考える活動を通して、交通ルールを再確認したり、ヒヤリハット体験をなくすにはどうしたらよいか考えたりするなど、生徒が主体的に自転車の安全な利用について考えられるようにする。

## 指導事例（第2時・第3時 / 3時間）

## 1 ねらい

自らの体験などから、現状の交通安全について振り返り、交通安全の徹底に向けてメッセージを発信できるようにする。

## 2 指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各クラスで「いいね！」が一番多かった宣言は『のぼり』になることを知る。</li> <li>○タブレット端末を活用し、授業支援ツールのアプリ内にあるワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ヒヤリハット体験のない人は、聞いた話や知り合いの体験でもよいが、できるだけ自分の体験を想起させる。</li> <li>◎このあと共有をするので個人情報を書かないことに留意することを伝える。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ヒヤリハット体験をタブレット端末上で共有する。</li> <li>○「こうしたヒヤリハット体験を無くすにはどうしたらよいか」について関連する資料等を調べ、話し合う。</li> <li>○グループの意見をワークシートに書く。</li> <li>○その意見を基に、今、自分たちが取り組めることを考える。</li> <li>○グループで交通安全宣言を作り、授業支援ツールのアプリに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎個人情報について詮索をしないように体験の内容を見るように指導する。</li> <li>◎インターネット等で調べることを促す。</li> <li>◎考えた意見を端的に伝える宣言をグループで作るように促す。</li> <li>■グループの意見を生かして宣言を作ろうと取り組み、アプリに記入しているか。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループで作成した交通安全宣言の中でよい作品を投票で選ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各クラス 10 個の交通安全宣言が出される。</li> <li>・一人3回「いいね！」を押す。</li> </ul> </li> <li>○警察から講評をいただく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎よさを認めて、投票するという行動をすることで、生徒が興味をもって交通安全宣言を意識できるようにする。</li> <li>◎講評の中でヘルメット着用について触れるよう、事前に伝える。</li> </ul>

## 生徒の学習状況

- 他の生徒のヒヤリハット体験を知り、自分にも経験があったことを思い出して話し合う姿が見られた。
- 交通安全に関する資料を調べて、グループで交通安全宣言を作る姿が見られた。

## 生徒の変容

- 各自が考えた交通安全宣言を共有することで、自転車を安全に利用しようとする生徒の姿が見られた。